

第 25 期

中間株主通信

2024年4月1日 > 2024年9月30日



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第25期中間連結会計期間（2024年4月1日から2024年9月30日まで）における営業の概況と決算の状況をご報告申し上げます。

代表取締役社長

卷野 徹



当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増加を背景に、内需を中心に景気は緩やかな回復基調となりました。一方で、人件費や物流コストの増加などの物価上昇による個人消費への影響が懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの主な事業領域である建設・建材業界では、首都圏の大型プロジェクトや大阪・関西万博関連の工事のほか、円安によるインバウンド需要を背景に旺盛な設備投資が進んでおります。一方で、建設資材価格や労務費の高騰による工事収益の圧迫や施工員の高年齢化と人材確保の問題などにより、採算性の悪化が懸念される環境が続いております。

工業製品・エンジニアリング事業領域では、プラント、環境エネルギー分野において、海外を中心に業界の需要は高まっており、再生可能エネルギーやカーボンニュートラルを見据えた設備投資が進んでおります。船舶分野においても造船市場は中長期的に拡大傾向にあり、クリーンエネルギー船舶の建造に対する需要が

高まっております。一方で、自動車業界においては、半導体不足は徐々に改善されてきておりますが、自動車価格の高騰や国内の一部メーカーによる性能試験の不正などにより、厳しい販売環境が続いております。

このような環境の下、サステナブルな事業活動を通じて社会課題の解決に貢献し続ける企業への進化を目指し、当社グループの新たな未来像を描いた長期経営構想「Vision2033」とサステナビリティ課題への取り組みを相乗的に推進する「CSR2033」を車の両輪として持続的な発展と企業価値の向上に取り組んでまいります。

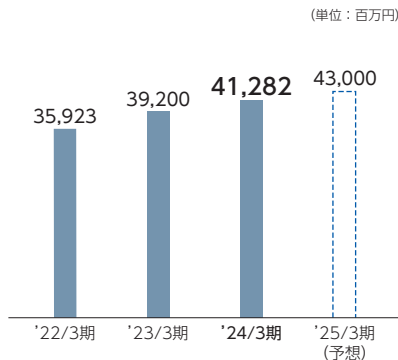
当中間連結会計期間の売上高は20,246百万円（前年同期比3.5%増収）、営業利益882百万円（前年同期比13.4%増益）、経常利益879百万円（前年同期比1.8%増益）、親会社株主に帰属する中間純利益533百万円（前年同期比67.4%減益）となりました。

営業の概況は以上のとおりでございますので、株主の皆様におかれましては、今後ともよろしくご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

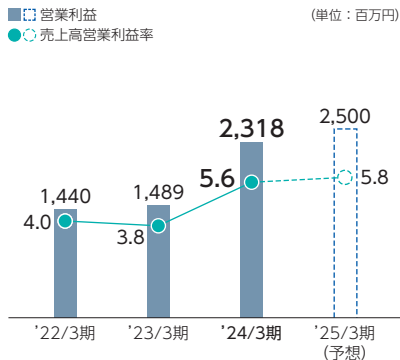


連結財務ハイライト／通期の見通し

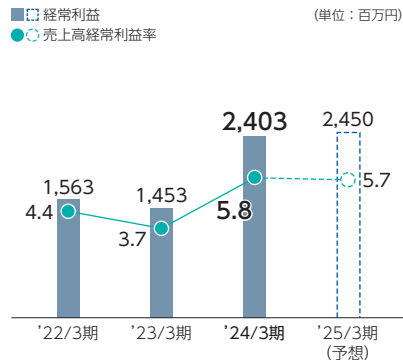
売上高



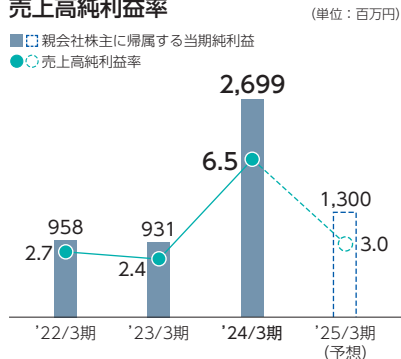
営業利益／売上高営業利益率



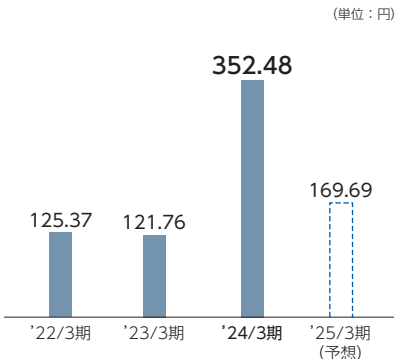
経常利益／売上高経常利益率



親会社株主に帰属する当期純利益 売上高純利益率



1株当たり当期純利益



通期の見通し

2025年3月期
連結業績予想

売上高

430億円
('24/3期比4.2%増)

営業利益

25億円
('24/3期比7.8%増)

経常利益

24.5億円
('24/3期比1.9%増)

親会社株主に帰属する
当期純利益

13億円
('24/3期比51.8%減)

2025年3月期
配当予想

1株につき
60円

事業概況

建設・建材事業部門



外部天井 ハイラックフネン®

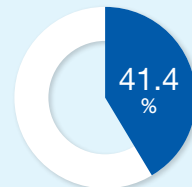
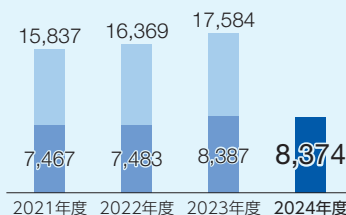
内壁 アデック木目



売上高 **8,374** 百万円 (前年同期比 **0.2**%減)

売上高 (百万円) ■ 中間 ■ 通期

売上高構成比



工業製品・エンジニアリング事業部門



チェーンロッカー

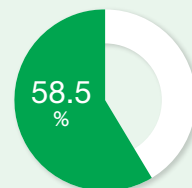
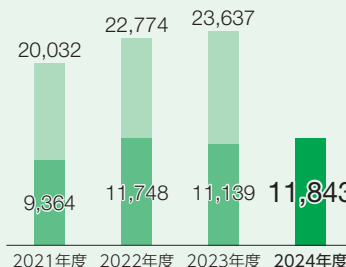
粉体圧送エルボ配管



売上高 **11,843** 百万円 (前年同期比 **6.3**%増)

売上高 (百万円) ■ 中間 ■ 通期

売上高構成比



その他

売上高 **28** 百万円 (前年同期比 **3.0**%減)

材料販売

国内では主力商品であるけい酸カルシウム板「ハイラックフネン®」の販売は、首都圏の再開発案件及び大型物件の工期遅延の影響により低迷しました。一方で、抗菌・抗ウイルス加工を施し特殊仕上げにより金属痕跡を防ぐ「ステンド®#400MB-V ガード®」と生産施設などのドライルーム用高性能不燃化粧板「ステンド®#800ドライ」の販売は、それぞれ特性を活かした販売戦略が受注拡大に繋がり前年を大きく上回りました。また、曲面施工が可能なオリジナル商品「エフジー®ボード」の販売は、文化・教育施設などの非住宅市場での確固とした採用により高い水準で販売数を維持しております。海外輸出では中国、韓国の不動産不況による建設需要に停滞がみられる一方で、台湾向けのけい酸カルシウム板販売は、台湾企業の国内回帰により建設市場は活発化しており大きく増加しました。国内外合わせた販売数量は前年に対しまして微増となり、原燃料費の高騰、物流費コストアップ対策として実施しております販売価格の改定に加え、高付加価値商品の販売が好調に推移し、売上高は増加しております。材料販売全体の売上高は増収となりました。

工事

西日本地区において複数の大型物件が完工したものの、都市部を中心とした大型物件において躯体工事を起因とする工程遅延が多発しております。今後も工程遅延による業績への影響が懸念されることに加え、仕入材料や労務費の高騰による工事収益の圧迫や人材確保の問題など工事環境は厳しい状況にあります。利益確保を見据えた適正価格による工事受注に努めてまいります。

材料販売

船舶関連では、国内の各造船所において建造が回復傾向にあり、自動車運搬船向けの防熱材や副資材の販売が好調に推移し、高騰する諸資材や輸送費の販売価格への転嫁に努めた結果、売上高は大きく増加しました。プラント関連では、定期点検での「APコネクター®」のメンテナンス工事や緊急補修工事の獲得に努めながら、選別受注にも取り組んだ結果、利益率は向上しました。保温・築炉関連では、国内の大口保温工事が無い厳しい状況下において、カーボンニュートラル関連向けの築炉資材の大口受注や保冷库工事の請負受注等、新たな取組が成果に結びつきました。自動車関連では、半導体不足や型式認証不正問題などからの業界全体の本格的な回復に至っておりませんが、顧客に対して価格再改定の交渉や新規受注の獲得に注力し、売上高は堅調に推移しました。また海外向けの受注についても得意先の在庫調整が進み、回復の兆しが見えてきております。産業機械分野においては、工場自動化（FA）の潜在的な需要はあるものの、中国経済の低迷により各社が在庫調整を行っているため厳しい状況ではありますが、不良の削減、生産性向上および人員再配置などの対策を講じ利益確保に努めております。材料販売全体の売上高は増収となりました。

工事

プラント部門のLNG燃料船タンク保冷工事やメンテナンス工事、建装部門の大型物流施設外壁断熱パネル工事が完工し、売上高は大幅に増加しました。重点顧客に対する深耕営業や提案営業による他社との差別化を図り、グループ各社と連携のうえ工事受注拡大に努めてまいります。



エーアンドエーマテリアルグループ会社のご紹介

大昭和ユニボード株式会社

Daishowa Uniboard Co.,Ltd

会社概要

設 立 1970年10月1日（昭和45年）
資 本 金 490百万円
代 表 者 代表取締役社長 新川 篤志
所 在 地 宮城県岩沼市字吹上西111番地
TEL 0223-22-1522（代）
HP <http://www.uniboard.jp/>



業務内容

低圧メラミン化粧板、建材、家具材等の製造・加工・販売

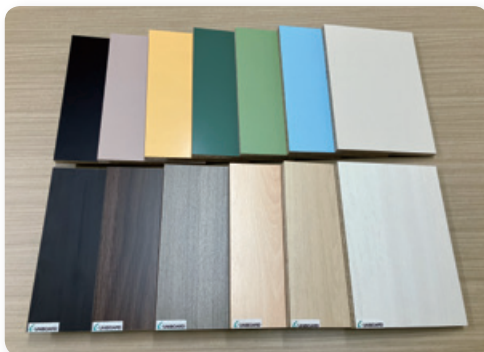
主要製品

低圧メラミン化粧パーティクルボード、低圧メラミン化粧MDF

1973年に木質資源の有効利用と新しい建材の開発、供給という目的で操業を開始いたしました。「ユニボード」はドイツで開発された低圧メラミン化粧パーティクルボードの製造方法を意味し、後に当社が商標登録を行いました。低圧メラミン化粧板の最大手として、住宅・建築・内装のメーカーに材料供給を続けています。

木材チップを熱圧成型して生まれる堅牢で美しい新素材「ユニボード」は、家具や建築内装の幅広いニーズに応えたJIS認証素材として、また現在、木質資源を有効利用した地球にやさしい製品として、世界の標準仕様との高い評価をいただいております。

今後も環境循環型企業としての誇りを持ち、環境への配慮に真剣に取り組むと同時に、品質・デリバリー等の更なる向上、新商品開発に努め、お客様からの多様なニーズに応えてまいります。



「ユニボード」サンプル



「ユニボード」使用例



会社概要／株式の状況 (2024年9月30日現在)

1. 会社概要

商号	株式会社エーアンドエーマテリアル
住所	横浜市鶴見区鶴見中央二丁目5番5号
設立	1924年3月4日 (大正13年)
電話	045-503-5760 (代表)
資本金	38億8千9百万円
従業員数	838名 (連結) 211名 (単体)
主な子会社	アスク・サンシンエンジニアリング株式会社 株式会社アスクテクニカ エーアンドエー工事株式会社 朝日珪酸工業株式会社 株式会社エーアンドエー茨城 株式会社エーアンドエー大阪 大昭和ユニボード株式会社 (※)

(※) 2024年10月1日より当社の連結子会社となっております。

2. 株式の状況

発行可能株式総数	30,000,000株 (1単元 100株)
発行済株式総数	7,758,274株 (自己株式19,726株を除く。)
株主数	6,230名

3. 役員

取締役及び監査役

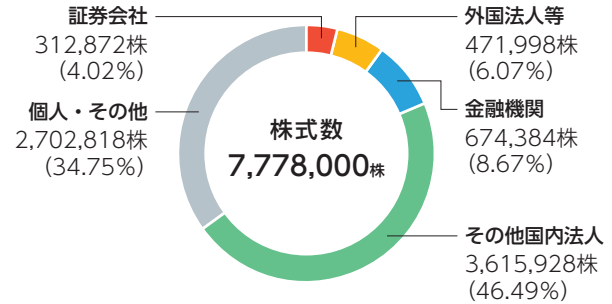
代表取締役社長	巻 野 徹	常勤監査役	中 村 宏 之
取締役副社長執行役員	大 橋 徹 也	監査役 (社外)	鶴 見 真利子
取締役常務執行役員	大 島 武 人	監査役 (社外)	森 田 泰
取締役常務執行役員	高 原 一 登		
取締役 (社外)	田 倉 榮 美		
取締役 (社外)	菅 谷 朋 子		

4. 大株主

株主名	持株数(百株)	持株比率(%)
太平洋セメント株式会社	32,915	42.42
明治安田生命保険相互会社	2,313	2.98
INTERACTIVE BROKERS LLC	1,646	2.12
個人株主	1,637	2.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,456	1.87
エーアンドエーマテリアル社員持株会	1,322	1.70
株式会社不二商会	855	1.10
株式会社日本カस्टディ銀行 (信託E口)	828	1.06
松井証券株式会社	761	0.98
株式会社三井住友銀行	755	0.97

(注) 持株比率は、自己株式19,726株を控除して計算しております。

5. 所有者別分布状況



執行役員

執行役員	工 藤 誠 司
執行役員	稲 田 豊
執行役員	皆 広 兆 軒
執行役員	國 本 正 臣
執行役員	市 川 智 司
執行役員	田 中 隆 敏

● ● ●

株主メモ

事業年度

4月1日～翌年3月31日

剰余金の配当基準日

3月31日（中間配当を行う場合は9月30日）

定時株主総会

毎年6月下旬

単元株式数

100株

株主名簿管理人

東京都千代田区丸の内一丁目3番3号

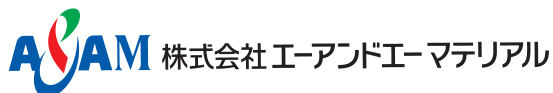
みずほ信託銀行株式会社

公告方法

電子公告（<https://www.aa-material.co.jp>）

ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社等で株式を保有されている場合	証券会社等で株式を保有されていない場合 (特別口座の場合)
住所変更、株式配当金受取り方法の変更などのお問い合わせ	お取引の証券会社等になります。	当社の特別口座の口座管理機関 みずほ信託銀行へお問い合わせ願います。 みずほ信託銀行 証券代行部 ホームページ： https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9：00～17：00)
未払配当金、その他当社株式関係書類についてのお問い合わせ	右記みずほ信託銀行までお問い合わせ願います。	
ご注意		特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。株式の売買にあたっては、証券会社等に口座を開設し、株式の口座振替手続を行っていただく必要があります。



〒230-8511 横浜市鶴見区鶴見中央二丁目5番5号
電話 045 (503) 5760 (代表)

UD FONT
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

